

社会言語学演習

単位数	2
開講時期	後期

授業の目的および概要

言語態度調査の実践

本講義のねらいは、前期の「社会言語学研究」で扱った言語態度に関する各種調査手法からいくつかを実際に運用しながら、学生独自の検証課題に基づいた言語態度調査を遂行し、その成果を小レポートにまとめることにある。

学期を通して二種類の調査プロジェクトの遂行を履修者に課す。一つ目は、日本語の地域方言に対する人々の言語態度や評価を検証する調査。二つ目は、世界英語を含めた多様な英語変種(地域方言や民族方言)に対する人々の言語態度や評価を検証する調査である。

授業方法

講義では、調査票の作成、調査用ツールの準備、フィールドワークの計画と進捗状況の報告、収集されたデータの分析を行うデータセッション、分析結果の検討などの活動を行う。

履修者による口頭発表とその内容に関する討議を軸に進行。

到達目標

二種類の言語態度調査を遂行し、調査成果を小論にまとめる。

授業計画

- 第 1回 オリエンテーション、前期で学習した言語態度研究のレビュー
- 第 2回 言語態度研究における方法論(概説)
- 第 3回 学生各自の研究テーマに関する文献のレビュー
- 第 4回 フィールドワークの計画(1): 学生各自の研究テーマに関する具体的検証課題の設定
- 第 5回 フィールドワークの計画(2): 学生各自の検証課題の検証へ向けたデータ内容の考察
- 第 6回 フィールドワークの計画(3): 学生各自の検証課題の検証へ向けたデータ収集方法
- 第 7回 フィールドワークの進捗報告(1): データ収集における調査票の作成方法
- 第 8回 フィールドワークの進捗報告(2): 調査票の作成およびパイロット調査の実施
- 第 9回 フィールドワークの進捗報告(3): パイロット調査の成果の検討
- 第10回 言語態度データの分析(1): 直接法によるデータの分析
- 第11回 言語態度データの分析(2): アンケート調査によるデータの分析
- 第12回 言語態度データの分析(3): マッチドガイズ法によるデータの分析
- 第13回 言語態度データの分析(4): ヴァーバルガイズ法によるデータの分析
- 第14回 言語態度データの分析(5): Societal Treatment調査によるデータの分析
- 第15回 調査プロジェクトに関する成果発表および討議

成績評価方法

以下の内容で総合的に評価する。

- 口頭発表およびディスカッションへの貢献度(50%)
- 小レポート(二種類)(各25%)

準備学習

教科書以外の文献・参考書・論文等を読み、講義内容の理解を深めること。

教科書参考書

教科書: Garrett, Peter. (2010). Attitudes to Language. Cambridge University Press.

参考書等: ① Meyerhoff, Miriam. (2011). Introducing Sociolinguistics. 2nd Edition. New York: Routledge ② 日比谷潤子(編著)(2012)『はじめて学ぶ社会言語学』ミネルヴァ書房 ③『応用言語学事典』研究社

注意事項

授業内で英文の精読・輪読は行わないので、受講者は毎時間扱う箇所を各自で必ず読んでおいてください。本講義の受講にあたっては、前期の社会言語学研究の履修を条件とします。